

みょうじょうのことごと

令和8年9月26日

第二十四集
明星神社社務所

秋の長雨とはいいますが、今年の秋雨はちょっと長過ぎますね。ほぼひと月、晴れ間がないというのは記憶にありません。さらに、ここ明和町近辺ではまだ被害はありませんが、線状降水帯による浸水被害があちこちで聞かれる昨今、明星の神さまに地域の安全をお祈りしなくては、ね！ ぜひ、皆さまもご安全に。。。

さて、今回の『みょうじょうのことごと』は、9月13日に斎行いたしました秋季例祭・敬老祭の様子を中心にお知らせいたします。

【トピックス その巻：秋季例祭・敬老祭を斎行いたしました】

秋季例祭は、当明星神社で最も重要で正式な神事です。この一年間、明星の神さまよりいただいたご加護に感謝し、次の一年も日本と世界が平和であること、そして五穀豊穡とあらゆる産業の繁栄、氏子各位とご崇敬者様の健康と家内安全を明星の神さまにお祈りする神事なのです。また敬老の日も近いので、地域のお年寄りの方々の健康と長寿も、併せてお祈りします。

今年の例祭は、神事が始まった頃は小雨でしたが、途中から本降りのあいにくの天気となってしまいましたが、その悪天候の中 30人ほどの方々がお参りに来ていただきました。足元の悪い中、ありがとうございました。

そして、当日は敬老祭でもあることから、お年寄りの方々の姿も多く見られました。



午前10時、定刻通りに始まりました神事は、下村宮司による参列者へのお祓いののち、氏子総代と自治会長は神殿前に進み、整列しました。

次に今年の新米、鮮魚、旬の野菜やお酒などのお供物を神さまに献上したのち、宮司さんが祝詞を奏上しました。

この祝詞は、この一年間の田畑の実りに、そして国全体そして明星にお住まいの皆さまへ神さまが下されたご加護への感謝を述べ、次の一年も続いてのすべての産業の発展、そして地域にお住まいの皆さまの健康と家内安全を祈念する内容となっております。



祝詞奏上の次は玉串奉奠（たまぐしほうてん）となり、下村宮司に続き、ご参列の各地区自治会長様、氏子総代一同、来賓の方々よりの奉奠をいただきました。

ところで、玉串とは榊の枝の先に紙垂（しで）と呼ばれる和紙で作った紙細工を取り付けたもので、ここに神さまが宿るとされています。

参詣者は、この玉串を神前に供えることで、神さまへの感謝と祈りを捧げます。

この玉串奉奠のあとは、お供物を神前より下げ、最後に神さまへ一礼をして本年の秋季例祭・敬老祭はとどこおりなく終了いたしました。



【トピックス その貳：豊栄舞（とよさかのまい）が披露されました】

今回の例祭では、神事終了後に舞のご披露がありました。昨年の例祭でも舞をご披露くださいました『干の会』代表 千種清美（ちくさきよみ）様が、今年は『豊栄舞（とよさかのまい）』をご披露くださいました。

この舞は、1950年に神社本庁が制定した祭祀舞のひとつであり、「豊かに栄える」という名の通り、五穀豊穰並びに世の平安と繁栄を祈る舞です。また、女性が舞うことを前提としているため、「乙女の舞」とも呼ばれています。

今回は、千種様が静かな曲調に合わせて緩やかかつ優美に舞ってくださり、その調べと舞姿は神社全体を荘厳な雰囲気包んでくださいました。

参詣された方々のほとんども、初めてご覧になったのでしょうか、約5分ほどの舞でしたが、皆さま その厳かで優雅なさまに、すっかり魅了されていたようでした。

千種様、ご多忙の中 舞をご披露いただきまして、まことにありがとうございました。



【トピックス その参：遷座祭に向けて本格的な動きが始まります】

明星神社では、20年に一度 社殿の大規模修理を行います、それを遷座祭と呼んでいます。遷座祭は今まで5回行われ、第6回目の遷座祭は、令和12（2030）年2月24日（日）斎行の予定で準備を進めております。

春に開催いたしました令和8年度第1回 自治会・氏子総代合同会議（4月12日）において、遷座祭に向けての今後の具体的な活動を検討する『第6回遷座祭 企画部会』の設置が、参政多数により承認されました。

これを受けまして、今回の第2回自治会・氏子総代合同会議では、各自治会にこの企画部会にご参加いただくメンバーの選出をお願いいたしました。

あと、僅か3年半後に迫りました第6回遷座祭に向けて、この企画部会のメンバーを中心に具体的活動を検討し、それに明星神社役員も加わり、ともに検討と活動を行っていきたいと考えております。

企画部会メンバーに選出された方々には、ご多忙の中恐縮ですが、遷座祭に向けての活動の中核としてご尽力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

また、企画部会における検討内容や具体的な動きにつきましては、逐一この『みょうじょうのことごと』でお伝えしてまいりますので、氏子各位におかれましてもこの『ことごと』をご一読いただき、続けてのご協力のほど なにとぞよろしくお願いいたします。

以上